

第九十回 帝國議會 貴族院

金融緊急措置令(承諾ヲ求ムル件)特別委員會議事速記録第一號

付託議案

- 金融緊急措置令(承諾ヲ求ムル件)
- 日本銀行券預入令(承諾ヲ求ムル件)
- 昭和二十一年勅令第九十號(承諾ヲ求ムル件)
- 臨時財產調查令(承諾ヲ求ムル件)
- 昭和二十一年勅令第二百二十八號(承諾ヲ求ムル件)
- 昭和二十一年勅令第二百一十一號(承諾ヲ求ムル件)
- 昭和二十一年勅令第二百二十七號(承諾ヲ求ムル件)
- 昭和二十一年勅令第二百五十九號(承諾ヲ求ムル件)
- 昭和二十一年勅令第七十九號(承諾ヲ求ムル件)
- 昭和二十一年勅令第八十號(承諾ヲ求ムル件)
- 昭和二十一年勅令第二百四十一號(承諾ヲ求ムル件)
- 昭和二十一年勅令第二百四十二號(承諾ヲ求ムル件)

委員氏名

- 委員長 男爵周布 兼道君
- 副委員長 子爵綾小路 護君
- 侯爵廣幡 忠隆君
- 侯爵中山 輔親君
- 子爵藤井 兼前君
- 荒川 文六君
- 男爵八代五郎造君
- 男爵紀 伊忠君
- 男爵斯波 正夫君
- 種田 虎雄君
- 田島 正雄君
- 澁澤 金藏君

小野 耕一君
片倉兼太郎君
飯塚 知信君
若見 蘭始君
膳 桂之助君
伯備王生 基泰君
子爵瀧脇 宏光君

昭和二十一年七月十一日(木曜日)午前十時二十二分開會

○委員長(男爵周布兼道君) 是ヨリ開會ヲ致シマス、私甚ダ不肖デアリマスガ、委員長ノ御協力ヲ仰ギマシテ無事ニ任務ヲ盡シタイト存ジマス、何卒宜シク御ヒマス、只今大臣御御見エニナリマシタ、是ヨリ金融緊急措置令外十二件ニ付キマシテ御説明ヲ受ケルコトニ致シタイト思ヒマス

○國務大臣(石橋退山君) 只今議題ニナリマシタ金融緊急措置令外十一件ノ緊急勅令事後承諾案ニ付テ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、最初ニ金融緊急措置令、日本銀行券預入令及ビ日本銀行券預入令ノ特別ノ件ニ付テ申上ゲマス、昨年ノ終戦以來御承知ノヤウニ我が國ノ紙幣發行高ハ急激ニ増加致シマシタ、其ノ儘ニ致シテ置キマスと、所謂悪性「インフレーション」ニ突入スアル危険ガアルト當時考ヘラレタ次第デアリマス、数字ニ付テ申上ゲマスと、本會議ニ於テモ述ベタト思ヒマスガ、日本銀行券ハ終戦當日ハ三百二億餘萬圓デアリマシタガ、昨年末ニハ五百五十四億餘萬圓ニナリマシタ、金融緊急措置令ヲ公布致シマシタ日ノ發行高ハ

六百十四億餘萬圓ト云フ狀況ニナリマシテ、之ニ連レテ又著シク物價ノ騰貴ヲ來シタデアリマス、斯様ナ終戦後ノ通貨ノ膨脹ハ、終戦直後ニ於キマシテハ政府ノ財政支出ガ急激ニ行レマシタ關係ヨリ生ジタデアリマスケレドモ、其ノ後左様ナ財政上ノ放出ガ止リマシタ後ニ於キマシテモ、戰時中銀行預金ナドノ形ヲ以テ累積致シマシタ莫大ナ購買力ガ引出サレテ使用サレ、當時所謂潛在「インフレーション」稱セラレタモノガ顯在「インフレーション」化シマシテ、紙幣ノ膨脹ヲ來シ、且又其ノ紙幣ノ或部分、相當部分ハ各方面ニ退蔵サレテ居ツタト考ヘラル、ノデアリマス、ソコデ當時ノ政府ハ、一面ニ於キマシテハ、緊急食糧對策等ノ措置ヲ講ジマスルト同時ニ、金融ノ面ニ於テハ、過剩購買力ノ主要源泉デアリマスル過剩現金及ビ預金ヲ一時封鎖致シマシテ、其ノ上ニ新タナ資金使用ノ適正ナ調整ヲ行フト云フ方策ヲ採リマシテ、憲法第八條第二項ノ規定ニ基キマシテ、金融緊急措置令、日本銀行券預入令及ビ日本銀行券預入令ノ特別ニ關スル件ノ三緊急勅令ヲ制定實施シタ次第デアリマシテ、當時シテハ誠ニ必要ナ措置デアツタト考ヘル次第デアリマス、次ニ臨時財產調查令デゴザイマスガ、是亦御承知ノヤウニ、終戦後、政府ハ戰時利得ノ排除、富ノ再分配、國民經濟ノ安定、戦後財政ノ確立等ノ目的ヲ以テマシテ、財産稅等ノ新稅ヲ創設致スコトトシテ、其ノ準備ヲ進メテ居ツタデアリマス、サウシテ此ノ

法律案ハ、聯合國最高司令部ノ承認ヲ受ケマシテ、本年最初ノ議會ニ提案スルコト、ナツテ居リマシタ次第デアリマスガ、其ノ議會ハ御承知ノ如キ事情ニ依リマシテ開會ガ甚ダ遅レルコトニナリマシタノデ、其ノ間ニ國民ハ財産稅等ノ課稅ガ行ハレルト云フ氣構ヘニ依リマシテ、預金ヲ引出シテ物ニ換ヘルト云フ運動ガ相當盛ニ見受ケラルルニ至ツタデアリマス、同時ニ又此ノ財産稅ノ關係等カラ致シマシテ、生産界ニ於テハ生産活動ノ停滯ヲ來スヤウナ狀況ニ見受ケラレマシテ、ソレ等ガ折衷ナリマシテ所謂「インフレーション」ヲ激化スルコトトナツタデアリマス、ソコデ政府ト致シマシテハ、至急ニ財産稅等ノ調査時期ヲ決定致シマシテ、サウシテ財界ニ「ソコ」安心ヲ與ヘル必要ガアルト云フコトヲ考ヘタ次第デアリマス、又同時ニ此ノ財産稅ノ調査時期ヲ早ク制定致シマスコトハ、後日ニ至リマシテ財産狀態ノ確認ガ殆ド不可能ト相成ルヤウナ、財産關係ノ移動ヲ防グ意味ニモナリマスノデ、其ノ財産關係ノ移動ノ頻繁ナ財産ニ付テハ先ツ調査確認ヲシテ置クト云フ必要ヲ感ジマシテ、ソコデ憲法第八條第一項ノ規定ニ依リマシテ此ノ財産調查令ヲ制定スルニ至ツタ次第デアリマス、此ノ勅令ニ於キマシテハ、調査時期ヲ本年三月三日午前零時ト云フコトニ定メマシタ、ソレハ丁度日本銀行券ノ舊券ガ強制通用力ヲ失ツタ翌日ニ當リマシマス、財産稅ハ、此ノ

財産ヲ對象トシテ課稅スルコトヲ豫定シタモノデゴザイマス、次ニ此ノ勅令ハ調査スベキ事項ヲ定メテ居リマスガ、其ノ一ツハ預金、貯金又ハ有價證券等ヲ預貯金者又ハ所有者カラ申告セマシテ、又生命保險、信託又ハ無盡等ノ契約關係ヲ契約者カラ申告セセル、又特別ノ場合ニ於キマシテハ、日本銀行券ノ舊券所有高其ノ所有者ヨリ申告セセルコトニ致シタデアリマス、以上ハ個人及ビ法人ニ通ジテ申告サセルコトニ致シタデアリマス、第二ハ、一般ノ法人ニ調査時期ヲ現在ト致シマシテ打切り決算ヲヤラセマシタ、サウシテ財産目錄其ノ他ノ書類ヲ作成シテ政府ニ提出サセタノデゴザイマス、第三ハ、物品販賣業、製造業等特定ノ事業ヲ行フ個人ニ、調査時期現在デ有スル特定ノ動産等ヲ申告セシメタノデゴザイマス、次ニ本勅令ハ申告ニ關スル特別ノ手續ヲ定メテ居ルノデアリマス、即チ預貯金、有價證券、各種契約等ニ關スル申告ノ場合ニ於キマシテハ、郵便局、銀行其ノ他ノ金融機關デ申告ヲ受理サセマシテ、申告者ハ申告書ト共ニ、預金通帳、預金證書、國債證券、株券其ノ他申告書ニ記載サレテ居ル有價證券、其ノ他財産又ハ契約ヲ證スル書類ヲ金融機關ニ持參スルコトニ致シタデアリマス、金融機關ニ於キマシテハ、申告書ト通帳、證券等ヲ對照致シマシテ、申告書ノ記載事項ガ正當ナルコトヲ確認シタ時ハ、大藏省デ發行致シマシタ申告濟證紙ヲ通帳、證券等ニ貼附ケマシ

テ、之ニ金融機關等ノ印章ヲ印シテ返還スルコトニ致シタルデアリマス、又預金者其ノ他ノ財產權者ノ住所、氏名等ノ正確ナルコトヲ期スル爲、申告ニ際シマシテハ、米穀通帳等ヲ持參セシメルコトヲ教シタルデアリマス、若シ其ノ申告行ハレナイ場合ニ於キマシテハ、預金ノ携戻、公債債ノ償還、株式ノ配當等ヲ停止シ、追ツテ別ナ法律ヲ制定シ、其ノ定メル所ニ依リ、申告洩レノ財產其ノ他財產上ノ權利ヲ國庫ニ歸屬セシメルコトヲ致シテ、申告方酌ニ適當ニ行ハレコトヲ期シタ次第デゴザイマス、此ノ外、調査ノ萬全ヲ期シ、且不正ヲ防止致シマス爲、法人ノ打切り決算ニ關スル提出書類、又個人ノ動産等ニ關スル申告ノ内容ニ付テ、其ノ當否ヲ確認スル爲メ必要ガゴザイマス時ハ、事務長又ハ其ノ代理官ニ質問及ビ検査ノ權能ヲ與ヘ、又各種ノ違反爲ニ付キマシテハ相當嚴重ノ罰則ヲ設ケルコトヲゴザイマス、以上が財產調査令ノ概略則デアリマス、次ニ昭和二十一年勅令第二百二十八號(所得稅中改正等件)ニ付キマシテ申上ゲマス、去ル三月二日、政府ハ、終戦後ニ於ケル事業ニ對處致シマシテ、物價ノ安定ヲ確保シ、社會經濟秩序ヲ維持ト國民生活ノ安寧トヲ圖ル目的ヲ以テ、物價統制令ヲ實施シタルデアリマス、之ニ依リマシテ、此ノ際新シイ價格體系ヲ設定シ、賃金、給與及ビ各種物資ノ價格ニ有リテ改訂ヲ行フコトニナツタデアリマスガ、當時施行サレテ居タ租稅制度中、特ニ基礎除、免稅點及ビ一部ノ税率等ハ、從前ノ價格及ビ賃金等ニ基礎トシテ定メラレテ居リマシタノデ、之ヲ其ノ體ニ致シテ置キマスルト、新物價體系ノ

設定ヲ見ル曉ニ於キマシテハ、課稅ハ重キニ失シ、國民ノ負擔ガ適正ヲ缺クト云フ弊ガ起リマスノミデナク、新物價體系ノ確立、食糧、通貨、金融等ノ諸政策ノ遂行ニ亦支障ヲ來スモノト認メラレタデアリマス、而シテ此ノ決定ハ急ヲ要シマシテ、議會ノ開會ヲ待ツコトガ出來ナキ事情ニアリマシタノデ、所得稅、營業稅、遊興飲食稅、入場稅、特別入場稅及ビ特別行爲稅ニ付キマシテ、基礎除額、免稅點及ビ扶養家族控除額ヲ引上ゲマシテ、又著シク高率ニ失スル税率ノ引下ゲヲ行ヒマシテ、負擔ノ適正ト國民生活ノ安定トニ資シタリ、斯ウ云フ譯デ、憲法第八條第二項ノ規定ニ依リマシテ本勅令ノ制定ヲ見ルニ至ツタ次第デアリマス、此ノ勅令ニ依リマシテ、先ヅ所得稅ニ付キマシテハ、其ノ基礎除額及免稅點ヲ二倍乃至四倍程度ニ引上ゲマシタ、例ヘバ甲種ノ勤勞所得デゴザイマスト、基礎除額一年六百圓ヲ二千四百圓ニ致シマシタ、又甲種及乙種ノ事業所得ニ對スル基礎除額ハ四百圓ヲ千二百圓ニ引上ゲタデアリマス、又扶養家族ノ控除額ハ年額二十四圓デアリマシタノヲ七十二圓ニ引上ゲルコトニ致シマシタ、又綜合所得稅ノ課稅最低限ハ從來三千圓デゴザイマシタノ一萬圓ニ之ヲ引上ゲタデアリマシタ、個人ニ於ケル免稅點ハ四百圓ヲ千二百圓ニ引上ゲマシタ、次ニ遊興飲食稅ニ付キマシテハ、課稅最低限ハ四倍乃至六倍程度ニ引上ゲマスト共ニ、税率ヲ相當程度引下ゲタデアリマス、次ニ入場稅及特別入場稅ニ付キマシテハ、税率萬分ノ全額ヲ三倍程度ニ引上ゲルト共ニ、税率ヲ相當程度低ク致シ

マシタ、又特別行爲稅ニ付キマシテハ、免稅點ヲ六倍程度引上ゲタデアリマス、以上ノ改正ニ依リマシテ、當時ノ狀況ノ下ニ於キマシテハ、昭和二十一年度ニ於テ所得稅ガ五千七百餘萬圓、營業稅ガ七百餘萬圓、遊興飲食稅ニ於テ七千四百餘萬圓、入場稅及ビ特別入場稅七千五百餘萬圓、特別行爲稅四百餘萬圓ノ國庫收入ヲ減少スル見込デゴザイマス、次ニ通信事業特別會計及ビ帝國鐵道會計ニ於ケル借入金等ニ關スル昭和二十一年勅令第一百一號及ビ同勅令第八十號ニ付キマシテ申上ゲマス、此ノ兩特別會計ノ昭和二十年度ニ於ケル事業經費用品費ノ増加、又從業員ニ對スル諸給與増加等ニ基キマスル追加經費ノ支拂財源ニ付キマシテハ、此ノ兩特別會計ノ歲入ガ臨時中及ビ終戦後ニ於ケル各種ノ事情ノ爲ニ著シク減少致シテ居リマス事情ノ爲ニ著シク、之ヲ借入金ニ求メル外ニ當時其ノ途ガナカッタデアリマス、從ヒマシテ、政府ハ已ムヲ得ズ、昭和二十一年勅令第一百一號ノ御制定ヲ仰ギマシテ、通信事業特別會計業務勸定ニ於テ一億八千九百四十萬圓、帝國鐵道會計收益勸定ニ於テ七億四千五百萬圓ヲ限度トスル借入金ヲ爲シ得ル權能ヲ得タ次第デアリマス、處方其ノ後、先程申シマシタ新物價體系ノ實施等ニ付キマシテ政府職員ノ給與ニ付キマシテモ暫定ノ措置トシテ、新臨時手當金ノ支給ヲ救ヌコトニ相成リマシタ關係上、通信、鐵道兩會計ニ於キマシテモ、其ノ所屬職員ニ對シテ是等ノ諸給與ヲ支給致シマス等ノ爲ニ、新通信事業特別會計ニ於テ一億七千七百餘萬圓、帝國鐵道特別會計ニ於テ二億二千二百餘萬圓ノ追加經費ヲ必要トスルニ至ツ

タノデアリマス、尙以上ノ外、帝國鐵道會計ニ於キマシテハ、金融緊急措置令ノ施行、又定期乘車券ノ料金引上計畫ノ改訂等ニ依リマシテ、運輸收入ガ減少スルニ至リマシタノト、尙諸物價ノ値上リ及戰災ニ因ル損害等ニ基キマシテ用品資金所屬ノ用品ガ著シク減少シマシタ關係上、用品資金ヲ資本勸定カラ補足シテヤル必要ガ生ジテ參ツタノデアリマス、而シテ是等ノ諸經費ハ、兩會計ノ歲入ノ狀況カラ致シマシテ、其ノ財源ヲ借入金又ハ公債金ニ求メルヨリ外ニ途ガアリマセス次第デアリマシタノデ、更ニ昭和二十一年勅令第一百八十號ノ御制定ヲ仰ギマシテ、通信事業特別會計業務勸定ニ於キマシテ九千八百十萬圓、帝國鐵道會計收益勸定ニ於テ四億五千萬圓ヲ限リ借入金ヲ爲シ得ル權能ヲ得マシタ、又ソレト共ニ、帝國鐵道會計資本勸定ニ於テ一億七千六百萬圓ヲ限度トシテハ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲シ得ル權能ヲ得タ次第デアリマス、以上申述ベマシタ諸經費ハ何レモ公共ノ安全ヲ保持スル爲ノ緊急ノ需用ニ基クモノデアリマシテ、總選舉後ニ召集セラレル帝國議會ノ開會ヲ持ツトガ出來マセシメ、政府ハ豫備金外支出ノ餘儀ナクセラレタノデアリマス、從ヒマシテ、其ノ財源調達ニ關シマシテハ、憲法第八條及ビ第七十條ノ規定ニ基キ兩勅令方制定公布セラレタ次第デアリマス、次ニ昭和二十一年度及ビ同二十一年度ノ一般會計ニ於ケル緊急缺クベカラザル經費ノ支出ニ關スル昭和二十一年勅令第二百二十七號、同勅令第二百五十九號、同勅令第七十九號及ビ同勅令第二百四十二號ニ付テ申上ゲマス、昭和二十一年度及ビ昭和二十一年度ノ一般會計ニ於キマシテ

ハ、終戦後ノ事態ニ即應スル等ノ爲ニ、緊急ナル各種ノ經費ノ支出ヲ必要ト致シタルデアリマス、處ガ衆議院ガ解散セラレテ居リマシテ、且第二豫備金等モ拂切リノ狀況ニアリマシタ關係上、政府ハ已ムヲ得ズ右ノ諸勅令ノ御制定ヲ仰ギマシテ、之ニ基キ只今申上ゲマシタ緊急經費ノ支出ヲ致シタルデアリマス、而シテ是等ノ勅令ニ依リマシテ支出ノ權能ヲ得マシタ經費ハ、昭和二十一年度分ト致シマシテ、昭和二十一年勅令第二百二十七號ニ依ルモノトシテハ、第一ハ航空機工場等ノ管理及ビ保全ニ關スル經費、第二ハ引揚民對策ニ關スル經費、第三ハ船舶運賃會ノ昭和十九年度ニ於ケル損失ノ補填スルニ要スル經費、第四ハ復員ニ關スル經費ノ四件デゴザイマス、其ノ金額ハ合計十二億二千九百八十八萬圓デゴザイマス、又昭和二十一年勅令第二百五十九號ニ依ルモノトシテハ、第一ニ行政整理ニ付テ退官退職給與ニ要スル經費、第二ニ外地勤務職員ノ給與ニ要スル經費、第三ニ地方職員ノ給與改善ニ付テ地方公共團體ニ對シ補助スルニ要スル經費、第四ニ風水害緊急復舊ニ關スル經費、第五ニ聯合國軍ヨリ返還ヲ受ケタル元陸海軍所屬資材等ノ處理ニ要スル經費、第六ニ緊急開拓事業施行ニ關スル經費、第七ニ土地改良事業施行ニ關スル經費、第八ニ戰爭再保險金支拂ノ爲ニスル漁船保險特別會計繰入金、第九ハ生鮮食料品、石炭、鐵及ビ電氣銅ニ關スル價格調整補助給金、第十ハ船舶運賃會ノ昭和二十一年度ニ於ケル事業費ニ對シ補助スルニ要スル經費ノ十件デアリマス、其ノ金額ハ合計二十六億六千四百四十萬圓ニナリマス、次ニ昭和二十一年勅令第二百七十九號ニ依ルモノトシ

テハ、第一ニ政府職員ノ給與改訂ニ伴ヒ要スル經費、第二ニ地方職員ノ給與改訂ニ伴ヒ地方公共團體ニ對シテ補助スルニ要スル經費、第三ニ地方職員ノ整理ニ伴ヒ退職給與ニ要スル經費ニ付地方公共團體ニ對シテ補助スルニ要スル經費、第四ニ地方公共團體ノ事業費ニ對シテ補助スルニ要スル經費、第五ニ日本發送電株式會社ノ經費ニ對シテ補助スルニ要スル經費、第六ニ地方公共團體ノ總計四十三億七千八百八十三萬七千圓ト相成ツテ居リマス、次ニ昭和二十一年度分トシテハ同勅令第二百四十二號ニ依リモノデアリマシテ、其ノ内譯ハ、第一ニ外地等職員ノ歸還ニ伴ヒ要スル經費、第二ニ復員ニ關スル經費、第三ニ終戰處理ニ要スル經費、第四ニ石炭價格調整補助金、第五ニ船舶運賃會補助ニ要スル經費、第六ニ歸還輸送ニ要スル經費ノ六件デアリマシテ、其ノ金額合計二十一億二千三百萬圓デゴザイマス、以上ノ諸經費ハ、何レモ終戰後ノ事態ニ即應シ、公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用ニ基クモノデアリマシテ、且ツ總選舉後召集セザレバ帝國議會ノ開會ヲ待ツコトガ出來ナイモノデアリマシタ爲メ、憲法第七十條第一項ニ依リ右ノ諸勅令ヲ御制定ヲ仰ギ處理シタ次第デアリマス、最後ニ昭和二十一年勅令第二百四十一號、即チ昭和二十一年度ニ於ケル大藏省證券及借入金ノ最高額ニ關スル件ニ付テ申上ゲマスガ、昭和二十一年度一般會計ノ四月乃至六月ノ收支ノ狀況ハ、年度當初ノ豫想ト致シマシテハ、普通歳入ハ約二十六億七千餘萬圓デアリマシテ、例年ト大差ノナイ狀況デアリマシタ、併シ歲

出ノ面ニ於キマシテハ、施行豫算ニ依リ經費ノ支出ノ外ニ、終戰ニ伴ヒマシテ、外地等職員ノ歸還ニ伴ヒ要スル經費、ソレカラ復員ニ關スル經費、終戰處理ニ要スル經費、其ノ他第二種預金支出又ハ前述ノ昭和二十一年勅令第二百四十二號ニ依リテ支出ノ必要ト致シマスル緊急缺クベカラザル諸經費ガ巨額ニ上リマシテ、其ノ所要額ハ約六十一億五千餘萬圓ト云フコトニ相成ツテ狀況デアリマシタ、從ツテ此ノ經費ヲ支拂致シマスニハ、普通歳入ニ依ル外ニ、更ニ約三十四億八千餘萬圓ノ國庫金ヲ調達シテカレバナラナイコトニ相成リマシタデアリマス、而シテ之ガ國庫金ノ調達方法トシテハ、其ノ時期ガ恰モ年度ノ始メデゴザイマスバカリデナク、爾後ノ増稅等ニ依リ歲入増加モ考ヘラレマシタノデ、會計法第六條ノ規定ニ依リマシテ大藏省證券ノ發行又ハ日本銀行ヨリノ借入金ニ依リ一時支辨シ置クノガ最モ適當デアラウト考ヘタ次第デアリマス、併シ大藏省證券及借入金ノ最高額ハ、施行豫算ニ於キマシテハ、五億圓ト定メラレテ居リマシタノデ、其ノ最高額ヲ三十五億圓ニ増額スル必要ガ生ジタデアリマス、而シテ大藏省證券及借入金ノ最高額ヲ増額致シマスコトハ、會計法第六條ノ規定ニ依リマシテ帝國議會ノ協贊ヲ要スルコトニナツテ居ルデアリマスガ、其ノ議會ノ速カナル開會ヲ期シ得ナイ等ノ狀況ニアリマシタノデ、憲法第七十條第一項ニ基キマシテ、本件勅令ヲ御制定ヲ仰イデ之ヲ増額シタ次第デアリマス、以上ガ金融緊急措置令外十一件ノ緊急勅令事後承諾案ノ御説明デゴザイマス、何卒御審議ノ上速カニ御承諾下サラムコトヲ偏ニ御願ヒスル次第デア

リマス
 ○委員長 男爵周布兼道君 大臣ノ御説明ハ終リマシタ、今日ハ此ノ程度ニシテ置キマシテ本委員ヲ止メマシテ、尙諸君ノ中デ何カ資料ニ付テ提出ヲ御希望デゴザイマシタラ、此ノ際御申出ヲ願フコトニシタイト思ヒマス
 ○男爵八代五郎造君 御伺ヒ致シマスガ、此ノ案件十二件一括シテ取扱ハレルノデスカ、或ハ適當ニ區分シテ取扱フノデアリマスカ
 ○委員長(男爵周布兼道君) 是ハ案件ガ多イノデアリマスカラ、一括致シマスト或ハ紛ラハシイカト思ヒマス、矢張り順次別々ニ致シテ行ツタ方ガ宜イカト思ヒマス
 ○男爵八代五郎造君 私ハ資料ヲ頂戴シタイト思ヒマスノハ、取敢ヘズ勅令第四百一十一號及勅令第四百十號、即チ特別會計ニ關スル此ノ二件ニ對シテノ資料デゴザイマスガ、通信事業及鐵道事業ノ二十年度ノ收支ノ明細ヲ一覽表ニシタヤウナモノヲ頂戴シタイト思ヒマス、ソレカラ此ノ勅令デ支出サレタ用途ガドウ云フ風ニナツテ居ルカ、ソレカラ通信事業及鐵道事業ニ投資シテアル所ノ資産デゴザイマス、現在ドノ位アルカ、取敢ヘズソレダケノ資料ヲ頂戴シタイト思ヒマス、次ニハ此ノ鐵道及通信ノ關係デゴザイマスカラ、運輸大臣及逓信大臣ノ御説明ヲ御願ヒシタイト思ヒマスカラ、此ノ次ニハ兩大臣ガ御出席ニナルヤウニ御取計ヒ願ヒタイノデス
 ○勝桂之助君 私ハ資料ノ御提出ノ御願ヲ致シタイノデアリマスガ、先ヅ此ノ金融緊急措置令關係ノ資料ト致シマシテ、時期ハ御當局適宜ニ御選ビ下スツテ結構デアリマスガ、終戰後現在迄

ノ日銀券ノ發行高、ソレカラ其ノ同ジ時期ニ對應シマスル各種ノ預金、普通銀行、特殊銀行、郵便貯金、地方各種ノ商業組合トカ農林組合ノ中央金庫等ニ於キマスル預金、ソレカラ各信用組合ニ於キマスル預金ノヤウナモノノ變遷、移動ノ分リマスヤウナ資料、終戰後現在迄ノドウ云フヤウナ時期ヲ御選ビ下サルカハ、此ノ問題ノ審議ニ便宜ナヤウナ所ノ適宜御選ビ下スツテ結構デアリマスガ、或レバク其ノ變遷ガ詳細ニ分リマスルヤウナ變動表ヲ頂戴シタイノデアリマス、ソレカラ次ニ財産調査令ノ關係ニ於キマシテ、若シモ統計ガ出來テ居リマスルナラバ、此ノ調査令ニ基イテドノ位ノ財産ノ届出ガアツタカ、其ノ内容ガ出來ルダケ細カク分レバ結構デアリマスルカラ、是モ適宜御考ヘ下スツテ此ノ表ガ頂戴シタイノデアリマス、次ニ各省ノ給與ノ臨時措置ニ關係致シマスル給與ガ如何ニ變ツテ來タカト云フコトヲ示シマスヤウナ給與令ノ寫シデアルトカ、或ハ給與ノ内規デアルトカ、サウ云フヤウナモノノ分リマスモノト、ソレカラ此ノ臨時措置ニ依リマシテ給與ヲシマシタ時ト、ソレガ此ノ終戰當時位ノ給與ニ比シマシテドノ位ノ増額ニナツテ來タカト云フコトノ比較ガ出來マスルヤウナ資料ガ頂戴シタイト思ヒマス、之ヲ御願ヒシマス
 ○委員長(男爵周布兼道君) 他ニハ御希望デゴザイマセスカ、ソレダハ取敢ヘズ兩君ノ御申出ガゴザイマシタ資料ヲ政府當局ノ方ニ請求ヲ致シマス、政府ノ方ノ御都合モゴザイマセウカラ、急速ニ提出ガ出來マスカドウデスカ、是カラ御諸ツラ致スコトニ致シマス、ソレダハ本委員會ハ是ニテ本日ハ散會ヲ

致シマス、次回ハ何レ御通知ヲ申上ゲルコトニ致シマス
 午前十時五十六分散會
 出席者左ノ如シ
 委員長 男爵周布 兼道君
 副委員長 子爵綾小路 護君
 委員
 侯爵中山 輔親君
 男爵八代五郎造君
 男爵紀 俊忠君
 男爵斯波 正夫君
 種田 虎雄君
 田島 正雄君
 小野 耕一君
 飯塚 知信君
 岩見 剛始君
 陸 桂之助君
 伯爵壬生 基泰君
 國務大臣 石橋 湛山君
 大藏大臣 柴田兵一郎君
 大藏參與官 野田 卯一君
 大藏事務官 池田 勇人君
 同 江澤 省三君
 同

第四部第八類 金融緊急措置令(承諾ヲ求ムル件)特別委員會議事速記第一號 昭和二十一年七月十一日【貴族院】

昭和二十一年七月三十一日印刷

昭和二十一年八月一日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局